

## 第 4 回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録

### 【審議会概要】

日時	令和 5 年 5 月 11 日（木） 14：00～16：00
場所	武蔵野市役所 812 会議室
出席委員	福田敦会長、安藤孝委員、高橋勉委員、浅川絢子委員、湊上佳子委員、平湯友子委員、石渡志津委員、田川良太委員 (欠席委員) 生駒副会長
事務局	吉崎産業振興課長、尾崎経済対策調整担当課長、庄司係長、藤木主任、須藤主任
専門部会 次第	1 開会 2 議題 (1) 報告事項 ア 審議会等の開催状況及び関連事務・事業の実施報告について（令和 4 年度） イ 市民等ワークショップについて (2) 討論 第三期武蔵野市産業振興計画骨子及び基本方針について (3) その他 3 閉会
配付資料	次第 ・資料 1 令和 4 年度第 3 回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録 ・資料 2 審議会等の開催状況及び関連事務・事業の実施報告について（令和 4 年度） ・資料 3 第三期武蔵野市産業振興計画に係る基礎調査報告書概要版 ・資料 4 第二期産業振興計画の進行管理表 ・資料 5 市民等ワークショップの開催について ・資料 6 第三期武蔵野市産業振興計画 骨子及び基本方針設定の考え方 ・資料 7 今後の策定スケジュール（令和 5 年度）  (報告書) ・第三期武蔵野市産業振興計画に係る基礎調査報告書

### 【議事】

#### 1 開会

- ・配布資料の確認

#### 2 議題

##### (1) 報告事項

- ア 審議会等の開催状況及び関連事務・事業の実施報告について（令和 4 年度）

資料 1、資料 2、資料 4 について事務局より説明

事務局	福田会長から補足があればお願いしたい。
会長	事業承継については、国が設置している「事業承継・引継ぎ支援センター」等で親族以外に承継する社会的事業承継を支援しているが、必ずしも周知されていない。また、デジタル化についても国が IT 補助金等の支援策を実施しているが、事業者により知られていない。本計画は市の産業振興計画だが、事業者が

	利用しやすくするために、国や都の施策の活用も含めて書き込んでいく必要があるのではないか。
--	--

## イ 市民等ワークショップについて

## 資料 5 について事務局より説明

会長	前回の専門部会で、子育てを一つの柱として設定してはどうかという意見、また、子連れでの来店を歓迎する店にステッカーを貼って示せばよいという意見もあった。東久留米市の商店会で、社会福祉協議会が高齢者に優しい店にステッカーを配布し、商店会マップにも記載する取組を行っているので、参考までにマップを回覧する。
----	--

## (2) 討論

## 第三期武蔵野市産業振興計画骨子及び基本方針について

## 資料 6 及び参考資料 1、参考資料 2 について事務局より説明

会長	資料 6 について意見をお願いしたい。
委員	方針 1 における武蔵野市の魅力について、市民と来街者にとって魅力は相反することがある。京都のオーバーツーリズムのように、吉祥寺駅近くも土日は混んでしまうので私はランチに行かない。双方が満足する魅力づくりが実現できるとよい。
会長	どちらの視点にも配慮する必要がある。
委員	方針 4 のリタイア後の学び直しの場について、これまでの産業振興は事業者やこれから事業を興す人を主な対象としていたが、コロナ禍や社会変化の影響により、自分なりのキャリア形成を考える人や、小さく事業をスタートする人が増えている。それに対する支援が盛り込まれている点が良い。具体的には、アントレプレナー(起業家教育)の検討、リタイア後の学びなおしの場(武蔵野自由大学等)の周知等である。武蔵野市らしさであり、住みやすい持続可能な産業振興に結び付けていくと考える。
委員	第六期長期計画の目指すべき姿「誰もが安心して暮らし続けられる 魅力と活力があふれるまち」や、現産業振興計画の基本理念「“まちの魅力”を高め、“豊かな暮らし”を支える産業の振興」を踏まえ、どの世代も継続的に安心して生き生きしていられることが重要と考える。その中で、不安を感じている世代として、子育て世代へのアプローチが入れ込めるとよい。また、人材の問題が顕著になっているが、そこには子育て支援は不可欠になる。子育てをしながら働き、稼ぎ、まちで消費することが考えられる。 武蔵野市は産業と暮らしが身近なところにある。子どもが生まれると身近なところで買い物をするが増える。子どもを連れて買い物に行ける魅力的なまちになるとよい。
会長	“もの”の消費以外に、“こと”の消費の循環を作り上げていく視点も重要だと考えた。
委員	方針 1 について、武蔵野桜まつりナゾトキクエストに参加した。秀逸なプログラムだと感じたが、併せて各所でお金を落とす仕掛けがあればさらに良かった。消費目的のイベントではなく、そこに行く楽しく、のんびりでき、自然と消費できるような仕掛けができるとよい。 方針 2 の人材不足・事業継承については、厚労省も推進している労働移動の活性化を意識してはどうか。コロナ禍で転職する人が増えた。定年後のキャリア形成だけでなく、30～50 歳代の現役世代が本市で働きたいという労働移動が生み出せるとよい。その視点から、資料 3 の市民アンケート調査結果をみると、市内

	<p>への就業に関心を持っている層が一定あるが、就労していない人を除いた母数で、集計するともっと関心を持っている人の比率は高くなるだろう。また、年代別に集計することにより施策のターゲットも見えてくるかもしれない。</p> <p>方針3について、私の会社員時代を振り返ると日々の仕事に追われて、副業を持つ人は極わずかだった。小さな副業につながるような市内の事業者のニーズ情報（IT化等）を市がまとめて提供できる仕組みがあるとよい。</p> <p>また、説明会、セミナーに会社員が参加できるよう、オンライン開催を実施したり、アーカイブを残したりするなど、伝えたい人に伝わるようにすることが重要である。</p>
会長	<p>事業者間マッチングの事例はあるが、個人とのマッチングはあまりない。行政は予算化してマッチング支援をする必要はなく、事業者や個人の背中を押してあげればよい。事業者に困りごとができた際に頼れる場があることがまちの特性になり、ブランド化にもつながる。</p>
委員	<p>子育て世代への施策を入れてほしい。以前、第二の人生を子育て支援に取り組む男性を紹介する新聞記事を見た。記事の中で、男性は「仕事にやりがいを感じている。世の中のお母さんは疲れている、1時間でもリフレッシュする時間が必要」と語っていた。男性、女性に拘らず、1時間でも子育てを手伝ってくれる人を確保して、商店会等で使用できる補助券を配布するなどの仕組みがあってもいいのではないか。</p> <p>方針3と4について、第三者への事業承継のニーズはあるが、マッチングは容易ではない。むさしの創業・事業承継サポートネットでは様々な支援を行っており、事業承継支援も行っている。広く周知するために、パンフレットはサポートネットの事業内容を詳細に押し出すものに改編してはどうか。</p> <p>創業支援は、創業後の伴走支援が重要である。むさしの創業塾等を通して異業種交流やこれから創業する人達が相談できる場があるとよい。</p> <p>後継者育成塾や創業塾を開催し、そのネットワークの中で後継者も含めて人のマッチングを図ることを支援するとよいのではないか。</p> <p>商工会議所とは既に連携していると思うが、さらにコミュニケーションを取りながら連携を強化して行ってほしい。そういった点を計画にもっと落とし込んでもらいたい。</p>
会長	<p>子育てやシニアなどの様々な世代の社会参加のあり方や、現役世代の働き方等が変化してきている。自分探しや生活とビジネスのサードプレイスづくり等の視点を入れ込むことは、難しいができるとよい。</p> <p>また、事業者が具体的なアクションをする際のサジェスションがある計画になるとよい。創業支援だけでなく、創業者の成長、発展までつなげていくことが重要である。それには、一つの考え方だけでは限界があり、今まで見えていなかった様々な方法や情報が入手できるようなネットワークがビルドインされている環境があると、武蔵野市への関心も高まっていくだろう。そういった点を計画全体のトーンの中で示せるとよい。</p>
委員	<p>基本方針3と4の施策の柱について、学びなおし・人材活躍の推進とDX・デジタル化の推進は一緒に考えていく必要があるのではないか。</p> <p>方針2の学生との連携について、大学生だけではなく、中学生や高校生を対象としてもいいのではないか。</p> <p>すでに、高校では「地理総合」の教科で、まちの現状や動向を学び、地域をどうすればよいかを考える学習をしている。高校生を対象とすることにより、まちを好きになってまちを一旦出ても帰って来くるようになってほしい。</p> <p>学びなおしの話がでていたが、個人的には学ばばどのようなことに役立つの</p>

	<p>か出口が見えないと学ぶ気になれない。学んだ結果が見えるようなことも重要である。</p> <p>コロナ禍を経て、オンライン会議や在宅勤務等が普及した。コロナ禍で学んだことを生かしていくことも入れ込めるとよいのではないか。例えば、武蔵野桜まつりでは友好都市とオンラインで連携するアイデア等も出たが、コロナ禍による変化を観光に生かしていくことも検討できればよい。</p>
会長	<p>コロナ禍の影響を大きく受けたのは大学生だろう。そのため、コミュニケーションに疑心暗鬼になっている傾向がある。コロナ禍を振り返る必要があるのかもしれない。コロナ禍を経験したからこそ得られたものとともに、得られなかった経験等を振り返り、それを糧に今後の学生との連携のあり方を考えていくことも必要かもしれない。</p>
委員	<p>方針1は大きなテーマである。市民は武蔵野市に住んでいる誇りがあると思う。産業振興を図り魅力を深めていく計画において、反映できていない点が課題と捉えている。</p> <p>方針5の「安心安全」は今までになかったテーマである。社会動向の変化等を踏まえ学びを活かしていくテーマとなっている。その中で、新たに経済危機に備える点も入れた。行政としては、基礎調査を継続すること難しいが、コロナ禍を経験して毎日の体温が測ることが重要といったことを学んだ。経済活動も同じで、基礎体温・日々の経済活動の状況や実態が分からないと対策が打てない。その点も計画に入れ込めるとよい。</p> <p>子育て支援は広範囲に渡っており、今回、子育て支援という言葉の奥深さを感じた。方針の一つに子育て支援に係る文言を入れることを検討してもよいのではないかと。</p>
会長	<p>審議会でも子育て支援を盛り込んでいったらよいという意見をもらっているが、計画のどこに盛り込んでいくか検討が必要である。計画の中から読みとれることが必要である。</p>
委員	<p>方針3に持続可能な産業振興とあるが、SDGsには教育について誰もとりこぼさないという目標もあり、人が育っていく中で事業も回っていくことに触れてもよいのではないかと。</p> <p>方針2について、小学生から働くことや仕事を学んでいくようになった。低学年からまちで事業者へのインタビューをしたり、その結果を発表したりしている。学生の力を借りて、産業に役立てるという一方通行でなく、このまちで子どもの時から育てていくといった方向性が方針2に入ればよいのではないかと。</p> <p>「こうなったらいいな」という方向性を方針6として追加して、その施策として子どもや子育て世代の働き方支援等が位置付けられればよい。</p>
委員	<p>商店会で大学生に働く場所を提供する事業を実施したが、余裕がない、面倒だといった理由等から学生を受け入れることに協力的でない事業者もあった。</p>
委員	<p>子どもが体験できる場は有意義と思うが、商店会で温度差があった。市から推進してもらうか、少しでもインセンティブを付けるか、表彰制度等を検討してはどうか。</p>
会長	<p>横浜の中華街に対して、学生がARやVR、ネット等を活用して、中華街の魅力を高める提案を行い、良い案は実施を検討するという事業を行った。</p> <p>学生がいきなり店に入るとなるとハードルが高い。第一段階として、商店街と学生がやりとりする機会があって、商店街も学生の力量を測るといったことから始めるなど、温度差を和らげることが必要である。</p> <p>大学側からすると、学生がまちの現場に出るチャンスがあるとよい。現場にいかないといくと課題が見つからない。教室の学びと現場の経験の双方ができるとよい。</p>

委員	<p>以前、みちあそびを企画する話があって、その実行委員会に子どもも加わり、子どもが商店会に協力してほしいことをプレゼンしたことがある。</p> <p>単独での受け入れが困難でも、全体のプロジェクトが見えて、商店会側にも、子ども側にも実行する組織があって、組織間で相互に問題や課題をやりとりできるとよいのではないか。</p>
委員	<p>パイロット的に実施することはできる。すでに、小学生の職場体験はプログラム化されている。小学生から大学生までそれぞれの年代別に意味のある体験ができるようなプログラムを入れられるとよい。</p>
委員	<p>第六期長期計画の子ども・教育に関する施策である、「子どもと子育て家庭を地域社会全体で応援する施策の充実」では、「市民、企業や店舗、子ども・子育て関係団体等、多様な主体による事業を展開する」と書かれており、企業や店舗も記載されている。企業や店舗の参画は、この第六期長期計画の施策に対応していることを盛り込めるとよい。</p>
委員	<p>これまで、わくわくしながらディスカッションをしてきたが、計画骨子という形に落としてみると、施策の柱の表現が急にわくわくしないものになった印象を受けた。例えば、「まちの魅力発信」のように TO DO の内容が書かれているだけで伝わらない。「まちの魅力発信」ではなく、「来たいと思われるまちづくり」や、「都市観光推進」は「身近な魅力を感じられる観光」といったように、TO DO ではなく、GOAL を表現できないか。</p>
委員	<p>今までの計画では見られない表現だが、新しいことをするためにはブレイクスルーしなければいけないので、この場で議論すればよい。</p>
委員	<p>「安心安全のためのまちづくり」や「まちの魅力発信」等はよく使われている表現である。「居心地がよくなり歩きたくなるまちづくり」など、イメージしやすい表現にした方がよい。</p>
会長	<p>施策の柱の表現は施策を推進することを意識して作っているのだろうが、市民や事業者の目線では、施策の柱は1行でイメージできる方が親和性も出てくるといふことだろう。</p> <p>方針について、子育て支援を6番目に入れる意見が出たが、それでは弱いだらう。方針の上位のところで記述するか、あるいは方針1の次ぐらいに入れるのがよいのではないか。</p>
委員	<p>第六期長期計画は市民に伝えることを前提としている。産業振興計画もいろいろな人に伝えることを目指して分かりやすい表現にしてはどうか。</p>
委員	<p>施策の柱の表現は標題で、今後それぞれに説明文が入ってくる。その文章の作り方で変わってくる。また、概要版も作るので、ビジュアルも含めてどれだけ伝えられるものにするかは今後も相談していきたい。</p> <p>本編は伝えたいことが多いとどうしても事務的になってしまう。誰に対して何を伝えていくかを明確にして作成していくことが重要となる。</p>
会長	<p>他に追加すべき意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>方針1に関して、武蔵野市の特徴といった際に、「豊かな文化と発展をもたらす産業の振興」とあり、市の要覧も文化と産業といった表現が多く見られる。骨子案では、クリエイティブ産業としてアニメは記載されているが、世代を超えて文化芸術を楽しむことが大きな魅力であると思うので、広く文化芸術にもつなげていく表現があってもよいのではないか。</p>
委員	<p>文化は人の営み、人が築き上げてきたものが文化だと思うので、武蔵野市にあるというべきだと考える。</p> <p>クリエイティブ産業は第六期長期計画で位置付けられているので、本計画にも入れる方向性だ。肉付けはできるかと思う。</p>

会長	<p>本日頂いた意見に多くのキーワードが含まれている。それを活かす形で事務局は骨子案と表現を再考していただきたい。</p> <p>日本では高齢者の独居世帯が増える中で、子育て世代だけでなく、市民が生活していく中での困りごとを産業として解決していくことが需要の創造にもつながる。</p> <p>単独の事業者では難しいが、プラットフォームやネットワークの中で事業者がワンストップで情報を得ることができる仕組みがあれば事業の創出と、よりよい生活の実現につながる。計画にそのような記述があると、生活と産業の一体感ができ、利用者にとっても親和性が生まれるのではないかと。</p>
----	--

### (3) その他

資料 7 について事務局より説明

## 3 閉会